

ドイツ連邦食料・農業省 最新農林漁業情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 25
2017・11・5

1 インドにおける世界食料会議に政務次官が出席（2017・11・3）

ドイツは、インドのデリーにおける工業―食料加工国のために、インド省による最初の見本市”世界食料インド”のパートナー国である。連邦食料・農業省の政務次官ペーター ブレーザーは、これを機に2017年11月2~4日までの、インドへの旅に立った。”増大する世界人口の食料は、我々の時代の中心的な挑戦である。同時に食料分野は、21世紀の1つの将来部門である。

世界食料インドのパートナー国を担っているドイツは、我が国の農業―食料業のノウハウと革新力について、明確な信頼を証明する。インドにおける製造―キャンペーンでもって、インド政府は多様な刺激システムを創りだしている。食料部門の外国企業が、現地での仕上げ作業とインドにおける投資を促進するために。我々は、ドイツの高品質生産とノウハウを提供することによって、インドと共同でさらにこの道を進む。そのためにこの見本市”世界食料インド”は、特別な基盤である。私は我々の国の企業が、これを活用することを確信している。

背景

工業―通商連盟の分析によると、2020年にインド食料分野における販売額は、5000億USドルになると評価している。しかもこの国は多くの分野において、既に量的に世界で最も大きな農業生産国である（例えば牛乳において）。だがしかし、さらなる加工の割合、そして同時に得ることのできる価値創造が、依然として少ない。

インフラと物流システムの不足は、未だに収穫後の損失を、結果としてもたらしめている（例えば、不足している冷蔵チェーンと適切な貯蔵の可能性）。ドイツパビリオンにおける見本市参加は、展示―取引交渉並びにプレゼンテーションイベントを含んでいる。ここでは、インド市場へのドイツの専門分野企業の提供産品を紹介している。

農業、加工そして流通からの多くの著名なドイツ企業が、ここに代表を送り込んでいる。ブレーザーは、食品加工工業と農業に係るインド省の同僚大臣との政治的な対談のための、機会を活用する。関係省の信頼性の高い双方向の共同活動が、定期的な作業グループにおいて、政務次官レベルでの消費者保護と農業、食料業で明確に実現している。これは昨年ドイツ側に関して、ブレーザーを座長に選出した。

連邦食料・農業省は、インドにおいて種子プロジェクトを奨励する。そして彼の省に所属する連邦局一研究所を通じて、食料の安全と作物防除に関する残留物質管理の分野においても、積極的に支援する。同時に連邦食料・農業省は、既に今日2国間の通商への重要な貢献を、果たしている。

2 改善されたリスクマネジメントによる農業の強化 (2017・10・16)

ーイタリアにおけるG7ー農業大臣会議ー

10月14日~15日にイタリアのベルガモで開催されたG7ー農業大臣会議に関連して、連邦農業大臣シュミットが説明した：”G7ー議事日程での世界食料確保のために、農業の重要性がイタリアの農業大臣会議で確認された。農業政策は、飢餓との闘いで鍵の役割を演ずる。その際、農業は挑戦の前に立っている。気象変動と農業市場のグローバル化の高まりを背景に、リスクマネジメントのテーマの緊急性が増している。

ここで農業経営は、大きな自己責任を担っている。我々の共通の目的は、農業者をこの挑戦克服に際して、支援するための政策的な大枠条件を、創り出すことである。このため、経営上のリスクへの備えを改善し、予防対策を実践し、そしてその地域に適した生産システムを、さらに発展させることが求められている。我々の共通の目的は、異なるリスクに対して農業分野に、抵抗力を付与することである。

我々は、G7のヨーロッパ目標の中で、農業経営がリスクとの遭遇に際して支援するために、既に共通農業政策でもって効率的な手段を創り出している。

直接支払いは、我々のリスクマネジメントの基本的な手段である。これは、危機的な状況の中であって、最低限の収入を確保する。そして適切な時期の準備金形成において、それを可能にする。同時にこれは、農民的な経営の経済的のための、不可欠な手段である。

その上、農村地域における支払い能力の向上をもたらす。しかし、行動の必要性は、さらに価値創造チェーン中にある、生産者の地位改善を求めている。

我々は、農業者が市場リスクを1人で背負うことを、阻止しなければならない。私の目的は価値創造チェーンの中で、生産者の地位をさらに強化することである。

抗生物質の投入による耐性との闘いにおいてもまた、G7ー農業大臣はG20行動について、今日決定した農業大臣声明の中で受け継いでいる。ドイツのG20ー議長職のもとでのGー20農業大臣会議は、治療上の目的で抗生物質の投入を制限すべきことに合意した。このことは国際的な農業ー健康政策の中での、基本的な進歩である。

しかし、我々はこの目的に到達するまで、休むわけにいかない。特にいわゆる備蓄構成物質の使用は、限定的になされるべきである。

このことは、獣医ー人間医学との密接な共同活動が、行われた場合に成功する。そのため、我々はドイツにおいて「1つの健康の方法」を追求する。我々の共通の目的は、抗生物質の投入をさらに削減することである。

3 農村地域への投資を通じて飢餓との闘いを (2017・10・17)

ー FAO が世界食料デーを開催ー

世界は動いている。こては、今年の世界食料デーでも示されている。故郷からの逃亡原因との闘いのために、農村地域と農業の重要性を強調している。連邦農業大臣シュミットは、これについて説明した：“世界で8億1500万人の人々が、

飢餓に苦しんでいる。その内の半分以上、4億8900万人の人々が紛争地域に住んでいる。飢餓と経済的な展望の無さは、人々が自らの故郷を見捨てる主たる原因になっている。

毎日のパンのための不安は、武装した紛争とざわめきの中に、人々を追いやる。世界の裕福な地域は、生きる上での関心事を持つべきである。飢餓の悪循環の流れ、将来展望の無さ、不安、暴力そして逃亡を無くすために。空いたおなかには平和を見いだせない。”

キーワード：世界食料デー

1945年10月16日に国連の食料－農業組織（FAO）を設立するために、42カ国から代表が、カナダのケベックに集まった。

中心目的：飢餓と食料不安から人間を解放することである。FAOが毎年、この設立を思い起こすために、10月16日に世界食料デーを開催している。

”食料に関する人権において確認されているように、安全で適切なそしてバランスのとれた食料は、逃亡の原因との闘いのための、重要な鍵である。その際、農業は基本的な役割を演ずる。農業－食料政策は、世界的に社会の安定のために、重要な貢献のために責任を有している。農業への投資は、世界的に食料の確保のみならず、経済的成長と社会的発展のためにも、重要な貢献を果たす。

我々は新しい展望を創り出さねばならない。特に農村地域において。国連は、飢餓と栄養不足に対する闘いにおいて、共同活動をさらに強化すべきである。工業国－新興工業国が、必要な資金調達に圧迫されてはならない”と、シュミットが強調した。ベルガモにおけるG-7農業大臣会議の終わりにおいて、まさに逃亡の原因との闘いのために、効率的な農業並びに農村地域発展の重要性が強調された。

2017・11・5 訳

青森中央学院大学

中川 一徹